

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	30人
② 算数	30人
③ 理科	30人

5 留意事項

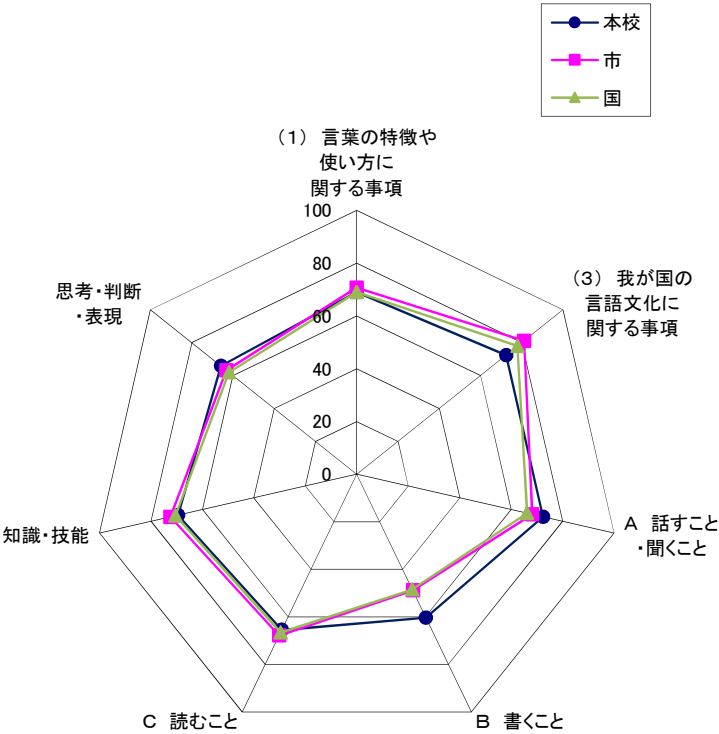
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.0	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	72.4	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	72.4	68.2	66.2
	B 書くこと	60.3	48.9	48.5
	C 読むこと	65.5	67.9	66.6
観点	知識・技能	69.5	72.5	70.5
	思考・判断・表現	65.9	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

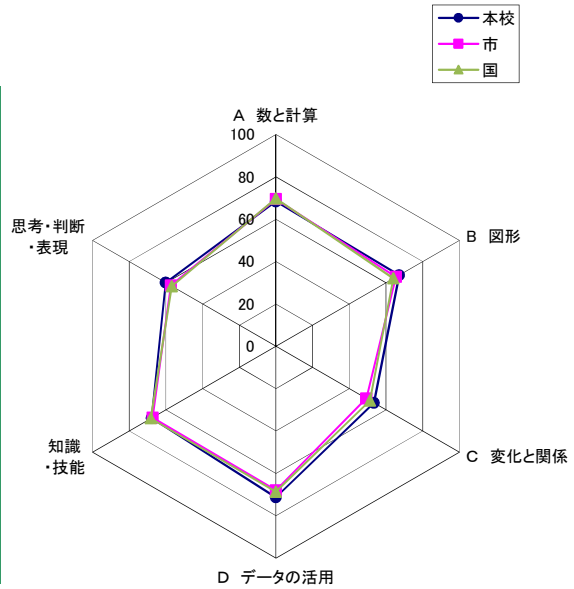
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均と同じである。 ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題の正答率は75.9%で、全国平均を7.1ポイント上回っている。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正答率は、3問中2問において全国平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、新たな言葉や表現について、意味や用法を確認し、定着させていく。 ・漢字の学習では、効果的に練習できるように課題の出し方を工夫するとともに、インプットとアウトプットを計画的に行っていく。 ・熟語の意味や用法を確認しながら学ぶ活動を取り入れ、語彙力を高めていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均より低い。 ●漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題の正答率は72.4%で、全国平均を5.5ポイント下回っている。	・文を書く活動の際に、読み手のことを意識させることで、読みやすくするためにどのようなことが必要かを考えながら書けるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均より6.2ポイント高い。 ○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題の正答率は89.7%、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題の正答率は55.2%で、全国平均をそれぞれ5.0ポイント、7.5ポイント上回っている。	・今後も、各教科の授業で話し合い活動を効果的に取り入れていく。 ・教科書の「話す・聞く」単元では、聞き取りメモを活用し、話し手の意図を確認しながら聞くことや、自分の考えと比較する活動を設定していく。 ・「海道小スタンダード」を活用して、話し方・聞き方等の学習態度の徹底を図る。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均より11.8ポイント高い。 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題の正答率は72.4%、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題の正答率は48.3%で、全国平均をそれぞれ13.2ポイント、10.6ポイント上回っている。	・今後も、国語の作文指導だけでなく、各教科や総合のまとめ等で自分の考えを書く際には、事実と感想、意見と理由を区別する、全体の構成や展開を考えるなど、筋道の通った文章が書けるよう指導する。 ・文章を書いて終わりではなく、互いに読み比べる活動を取り入れ、相違点やそれぞれのよさに気付き、その後の活動に生かせるようにしていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均よりやや低い。 ○表現の効果を考える問題の正答率は69.0%で、全国平均を9.8ポイント上回っている。 ●登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題の正答率は58.6%で、全国平均より9.8ポイント低い。	・物語文を読む際には、心情を表す言葉に注目させたり、場面ごとの登場人物の心情の変化を意識できるよう、発問やワークシートの工夫をしたりして指導を行う。 ・授業外においても、物語文の読書を推奨したり、本を紹介し合う機会を設けたりして、読む力の素地をつくる。

宇都宮市立海道小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.4	69.5	69.8
	B 図形	67.2	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	53.4	49.3	51.3
	D データの活用	71.3	68.0	68.7
観点	知識・技能	67.8	67.3	68.2
	思考・判断・表現	60.1	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

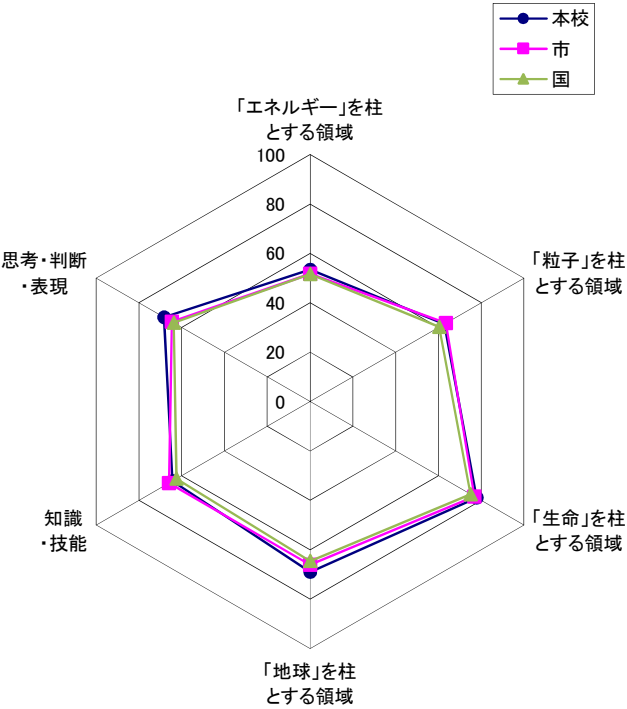
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均より1.4ポイント低い。 ○示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題では、正答率が86.2%と高く、全国平均を10.2ポイント上回っている。 ●二つの数の最小公倍数を求める問題の正答率は65.5%で、全国平均より6.7ポイント低い。誤答から、最大公約数と混同していることが分かった。 ●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題では、正答率が27.6%と低く、全国平均より7.2ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習内容の復習に関連する授業の導入時に行ったり、朝の学習や宿題等で継続的に行ったりすることで、基礎・基本の確実な定着を図る。 ・知識として身につけたことを活用する力を伸ばすために、他の領域や他の教科と関連させた問題を取り上げたり、日常生活に生かすことのできる活動を行ったりしていく。
B 図形	平均正答率は、全国平均より3.2ポイント高い。 ○コンピュータを使って正三角形の作図のプログラムをつくる際に、正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する問題では、正答率は62.1%で、全国平均を13.3ポイント上回っている。 ●示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する問題では、正答率が48.3%で、全国平均より9.3ポイント下回っている。	・図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、図形の意味を理解し、図形の性質を見付けたり確かめたりすることを大切にしていく。 ・図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を多様に考えることができるようにするために、コンピュータを用いて図形を作図するプログラムの作成などを授業に取り入れたり、学び合いの中で児童自身でアイデアを出し合いながら様々な見方や表現の仕方があることに気付かせたりしていく。 ・図形を活用する力を伸ばすために、日常生活の中で隠れている図形を取り上げる機会を増やし、身に付けた知識を活用することができるようにする。 ・学び合いの中で児童自身でアイデアを出し合いながら、様々な見方や表現の仕方があることに気づかせる。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均より2.1ポイント高い。 ○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題では、正答率が65.5%で全国平均より7.5ポイント高い。 ●百分率であらわされた割合と基準量から、比較量を求める問題では、正答率が58.6%で、全国より6ポイント低い。	・割合を用いて問題を解決するために、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、テープ図や数直線などの図、式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることを大切にしていく。 ・授業の中で、数学的な表現を柔軟に活用し、協働的に学び合うことで、自分の考えや集団の考えを広げ深めていくことができるようにしていく。
D データの活用	平均正答率は71.3%で、全国平均よりも2.6ポイント高い。 ○目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題では、正答率は72.4%で、全国平均より5.6ポイント高い。 ○分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題は、全国より1.6ポイント高い。	・日常生活の事象について、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察する学習を取り入れていく。 ・新聞や広告などを利用して様々なグラフを取り入れ、状況に応じて最適なグラフを選択できるようにそれぞれのグラフの特徴を理解させる。 ・グラフの中から読み取ったことをグループで共有し合い、学び合いを通して多面的な見方があることに気づかせるとともに目的意識をもって取り組むことができるようにする。

宇都宮市立海道小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.4	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	62.8	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	77.9	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	69.0	66.1	64.6
観点	知識・技能	64.4	65.9	62.5
	思考・判断・表現	68.3	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より高い。 ○実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題の正答率は41.4%で、全国平均を6.3ポイント上回っている。 ●自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して改善し、自分の考えをもつことができるか問う問題の正答率は65.5%で、全国平均より3.4ポイント低い。	・今後も、実験結果をもとに考察する時間を授業の中で十分に確保する。 ・実験の際に、与えられた手順通りに行うだけでなく、問題やそれまでの経験等を基に、自分で検討したり、互いに話し合ったりする活動を取り入れ、適切な実験方法を考えられるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より2.4ポイント高い。 ○自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して改善し、自分の考えをもつことができるか問う問題の正答率は69.0%で、全国平均を6.2ポイント上回っている。 ●自然の事物・事象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題の正答率は34.5%で、全国平均より4.8ポイント低い。	・今後も、自分が立てた予想と結果を照らし合わせて考え、まとめにつなげられるよう指導する。 ・引き続き互いの考えを共有する活動を充実させるとともに、他者の気付きや考えを新たな視点として、自分の考えをより深めたり広げたり、新たな考えにつなげたりできるよう指導する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より2.9ポイント高い。 ○提示された情報を、複数の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができるか問う問題の正答率は82.8%で、全国平均を6.7ポイント上回っている。 ●昆虫の体のつくりを理解しているか問う問題の正答率は69.0%で、全国平均より4.1ポイント低い。	・今後も、理科に限らず各教科において、示された情報や資料を正しく読み取り、そこから考えを作り出す活動を設ける。 ・授業だけでなく、朝の学習や家庭学習において、プリントやAIドリル等を活用し、前学年までの内容を復習できるようにする。 ・具体物の観察や操作、ICTの活用など、児童が理解しやすくなるよう、指導や教材の工夫を行う。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より4.4ポイント高い。 ○観察で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができるか問う問題の正答率は93.1%で、全国平均を10.8ポイント上回っている。 ●水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているか問う問題の正答率は58.6%で、全国平均より3.4ポイント低い。	・今後も、観察結果をもとに考察する時間を授業の中で十分に確保する。 ・ある事柄についての理解と別の事柄についての理解を結び付けて捉えられるよう、必要に応じて既習事項を復習させる。 ・視覚的に理解できるよう、写真や動画を用いて指導する。

宇都宮市立海道小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか。」の質問は肯定的回答が100%であった。また、「毎日、同じくらいの時刻におきていますか」の質問は、90%以上が肯定的回答であり、基本的生活習慣の基盤が整っていることが分かる。今後も家庭と連携を図り、規則正しい生活習慣の育成を継続していく。

○学習におけるICT活用に関する質問では、ほとんどの質問で肯定的な回答の割合が県及び全国を上回った。また、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思いますか」の質問は、100%が肯定的回答をしている。引き続き、学習の中で積極的にICT機器を使用し、ICT機器をより身近なものとして感じられるよう指導していく。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は、どちらも肯定的回答が100%であった。今後とも児童の自己肯定感を高める声掛けや指導を行いながら、自他ともに大切にできる思いやりの心を育てていく。

○話し合いに関するすべての質問で、肯定的回答の割合が県及び全国を上回った。中でも、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の質問は、肯定的回答をした児童が90%を上回った。引き続き、伝えあったり、協力したりする場面を授業内に多く設定することで、児童が主体的にコミュニケーション能力を培い、意欲的に取り組む授業づくりをしていく。

●理科に関するほとんどの質問で、肯定的回答をした児童の割合が県の平均を下回った。普段の生活と関連付けた授業内容や実験を増やしたり、より児童の興味関心を引き付けるような指導の工夫をしていく。

●「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと思いますか」、「国語の勉強は大切だと思いますか」のどちらの質問も全員が肯定的回答をしたのに対し、「国語は好きですか」、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問で肯定的回答をした児童の割合は県や全国の割合を下回った。単元ごとに理解度を把握し、児童の実態に合わせた授業づくりの工夫をすることで、国語に対する興味関心を伸ばしていく。

宇都宮市立海道小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入の場などで、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることにより、定着を図る。	国語「読むこと」の領域において、平均正答率が全国と比べて1.1ポイント低い。特に、「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題」の正答率は、58.6%で、全国の平均を9.8ポイント下回った。算数では、「図形」や「変化と関係」、「データの活用」の領域において、正答率が国の平均と比べて高かった。しかし、「数と計算」では、国の平均を下回った。理科は、どの領域においても全国平均を上回っていた。
対話的な学びを通して、共に高め合える集団作り	協働的な学び合いを通して、他者の意見や考えに触れ、自分の考えを見直す活動を大切にすることで、深い学びの実現を図る。	児童質問紙調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている」では、肯定的回答が86.6%で、全国平均より6.5ポイント高い。 国語の「話すこと・聞くこと」において、全国平均を6.2ポイント上回っている。特に、互いの立場や意図を明確にしながらい計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題は全国平均より7.5ポイント高かった。
家庭学習への取組	「家庭学習の手引き」や「家庭学習記録カード」等を活用し、計画的に学習に取り組むよう働きかけをするとともに、個別指導により、家庭学習の充実を図る。	「家で自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答は83.3%で、全国より12.2ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語「読むこと」の領域において、平均正答率が全国と比べてやや低い。特に、「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題」に課題が見られる。	読む力を育成するための言語活動の充実を図る。	物語文を読む際には、物語全体を通して、登場人物の気持ちや相互関係について描かれている複数の描写に着目しながら読むことができるように指導していく。 学校図書館司書と連携して学校図書館を利用することで読書活動を充実させ、本に触れる機会を増やしたり、朝の活動における全校一斉読書の実施を行ったりすることで、児童の読む力の素地を育てていく。